

## 「自啓」自らを啓くとは

4月9日に新入児童40名を迎えて251名の児童と38名の職員（他校との兼務者を含む）で、令和7年度のスタートを切りました。あっという間に1か月がたとうとしております。昨年度に引き続き、勤務させていただくことになりました校長の村杉一也（むらすぎかずや）です。どうぞよろしく願いいたします。明るく元気で素直な子供たちに囲まれ、勤めさせていただくことを大変嬉しく思います。

さて、皆さんは自啓（じけい）という言葉をご存じでしょうか。校舎の中に、いくつもこの言葉が掲示され、学校運営の柱である学校教育目標にも長年使われている言葉です。子供たちにも「自啓の精神」「自らを啓く」という言葉を使いながら指導する場面もあります。それでは、この言葉はどんなことを言っているのでしょうか。「自己実現に向けて、実践していく」平たく言えば「やりたいことや、なりたい自分に向けて、精一杯やってみよう」というところでしょうか。しかし、いかにもその言葉では覚えにくく、子供にも分かりにくい、保護者や地域の人にとっても伝わりにくい。それでは、どのように言い換えれば学年や学級目標、子供たちの目当てに意識してもらえるものになるでしょうか。

昨年度の学校だよりで目標について書かせていただきました。自啓を「夢や目標に挑戦」と言い換えてみてはどうでしょうか。将来に向けた大きな夢をもっている子供はそれほど多くないかもしれません。その子たちも夢にいきなり挑戦というわけにはいきません。その夢に向かって、もつべき目の前の目標を立て、少しずつ少しずつ夢に近づいていけばよいと思います。そして、将来その遠大な夢は実現しないかもしれません（実現しない人間の方が多いのですが）。しかし、そこに向かってコツコツ努力を積み上げる自分の生き方や過程を楽しみ（苦しむことも多いでしょうが）、充実感をもつことができればよいと思います。また、今のところ大きな夢を抱けていない子供は、無理して夢をもつ必要はありません。今、目の前にある小さなことに目標をもち、それができる、やり遂げる自分を励みにすればよいと思います。そういう生き方をしているうちに、たとえささやかであっても夢はきっと生まれてきます。その姿が、自啓「自分で考え行動し、生き方を高める子供」につながることを信じていきたいと思えます。

これまでと同様、保護者や地域の皆様の思いや願いを取り入れ、連携しながら教育活動を展開し、地域の宝物である子供一人一人を育てていきたいと思えます。

本校の教育活動に対しまして、保護者の皆様にはご理解とご協力、地域の皆様には温かいご支援をいただきますよう、よろしく願い申し上げます。

（校長 村杉 一也）